

大型有孔虫 *Amphistegina radiata* は、石川県の日本海沿岸まで生息域を拡げたのか? Has the distribution of larger foraminifera *Amphistegina radiata* expanded to the Japan Sea Coast of Ishikawa Prefecture?

柏原由実¹, 加藤 道雄^{2*}

Yumi Kashihara¹, KATO, Michio^{2*}

¹ 金沢大・理工・地球, ² 金沢大・自然・地球

¹Dept. Earth Sci. Kanazawa Univ., ²Nat. Sci. Tech. Kanazawa Univ.

日本列島周辺海域における大型有孔虫の生息域は南西諸島が中心であるが、1970年代以降、日本海沿岸から大型有孔虫 *Amphistegina* 属の産出が報告されている。石川県能登半島九十九湾で採取された柱状試料を用いて、*A. radiata* が1900年代初頭から現在まで継続的に産出することが報告されている。*A. radiata* の保存状態が良好であることから、*A. radiata* が九十九湾にまで生息域を拡大していることが考えられる。しかしながら、九十九湾の水温は冬季には大型有孔虫の生息可能水温よりも低いため、無効分散の可能性も考えられる。

沖縄県瀬底島周辺では、*A. radiata* の殻サイズに基づいて Agamont, Schizont, Gamont の存在が確認され、三形性生活環が報告されている。このことから、瀬底島周辺と名護市の海岸で採取した試料を用いて、各世代の初室サイズを明らかにしたうえで、九十九湾から得られた *A. radiata* の初室サイズがどの世代に該当するかを調査した。無効分散であれば Schizont や Gamont の世代が欠如していると考えられる。

沖縄の *A. radiata* の初室径の分布は、35 - 42 μ m と 77 - 84 μ m にピークをもつ二峰性を示した。しかし、これらのピークがどの世代に該当するかは不明である。Florida Keys の *Amphistegina gibbosa* に関して、顕球型のうち Schizont よりも Gamont の初室が大きいこと、顕球型と微球型とでは第2室の大きさが異なることが報告されている。沖縄の *A. radiata* の第2室は丸型と三日月型の二つの異なる形態をしており、丸型は個体数が少なく初室が小さい。一方、三日月型は初室が大きく初室径の分布は二峰性を示す。このことから、丸型が Agamont、三日月型のうち小さい初室を持つものが Schizont、大きな初室を持つものが Gamont と考えられる。九十九湾の初室径の分布は 35 - 42 μ m のピークしか認められず、丸型の初室を持つ2個体が含まれていた。

以上の結果から、九十九湾に産出する *Amphistegina radiata* の世代は Agamont と Schizont であり、生殖活動を行っているが三形性生活環は完結していないと判断される。

キーワード: *Amphistegina*, 生活環, 初室, 無効分散, 九十九湾, 日本海

Keywords: *Amphistegina*, life cycle, proloculus, abortive migration, Tsukumo Bay, Japan Sea